

## 「BSS115 の改定」

Mr. Pascal Deboodt (IAEA)

BSS は多くの国で使われており、その内容の安定化が必要であるが、ICRP の新勧告を受けて、2007 年に BSS の改定作業が始められた。これまでの作業経緯は、

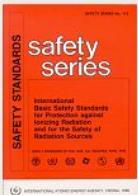
2007 年 5 月	Initial Topical Draft Meeting
2007 年 7 月 16-20	ウィーンにてテクニカルミーティング (TM)
2007 年 10 月	RASSC/WASSC ミーティング
2007 年 11 月 26-30	ドラフトミーティング
2008 年 3 月、4 月	ドラフトミーティング
2008 年 5 月 13-16	ドラフトレビュー
2008 年 6 月	ドラフト 1.0

ドラフト 1.0 については 2008 年 6 月以降、1200 件のコメントが寄せられている。今週、RASSC のミーティングがウィーンで開かれており、このドラフトについて協議されている。今後、ディスカッションが必要な項目としては、線量拘束値の概念、ラドン、免除とクリアランス、用語や定義が挙げられる。まだ、ラドンについては最終的判断が出ておらず、近々、提案が出ることになっている。

具体的な変更点はパラグラフ 3.77、3.98、3.101、3.104 が挙げられる。特に、3.104 は、職業被ばくの年齢下限に関するもので、16 歳未満は不可となっている。

今後のスケジュールとして、2009 年 1 月に BSS 改定のための IAEA ワークショップが予定されている。

**Revision of BSS SS115**



**International Basic Safety Standards for Protection against Ionizing Radiation and for the Safety of Radiation Source**

**Status of revision: draft 1.0**

**International Cooperation with**  
**WHO, PAHO, FAO, ILO, OECD/NEA, EC, UNEP,**  
**ICRP, IRPA**

